

「Attention,all passengers」 (メルマガ 2020年10月号)

10月を迎え、秋の深まりを感じますが、1日から新たな取組や変更が見られています。

まず、生涯学習プラザですが、協働事業を共に展開する「かわさき市民アカデミー」では後期講座がスタートしました。前期は休止していましたので、連日多くの受講生の方が訪れ、会議室が埋まる光景を嬉しく思います。また、プラザでは10月から市内在住の60歳以上の方を対象とした「シニア向け無料開放デー」を設け、一部施設の無料開放を始めましたので、ご利用をお待ちしています。詳しくは財団ホームページをご覧くださいと思います。

10月から始まることを紹介する報道の中で、「10月1日から、日本航空が機内などで英語のアナウンスをする際に使ってきた『ladies and gentlemen』という呼びかけを、性別を前提にしない表現に変えた」という記事が目にとまりました。新たな英語のアナウンスの表現は『Attention,all passengers』や『Good morning,everyone』などだそうです。

変えるきっかけは、2年前に都内で開かれたイベントで、社員が参加した人から「なぜ英語のアナウンスは男女が前提なのか」と聞かれ、この表現に違和感を覚える人がいることに気づき、この社員の意見から1年半かけて表現を変えることになったということです。

別のことで、少し前ですが、履歴書から性別欄をなくす動きがあることが報じられていました。就職活動で使われる履歴書から性別欄をなくすよう求める声が、政府や日本規格協会に届き、1万人以上が賛同したオンライン署名が今年6月末、経済産業省に提出されたことにより、経産省も「個人属性を問うことは適切ではない」との認識で日本規格協会に指導を行い、同協会は7月9日、性別欄や写真欄などがある履歴書の「様式例」を削除したというものです。今後、各メーカーの履歴書にも変化が出てくることが予想されるそうです。

様々な社会の動きを見ていると、今まで、性別を意識したり尋ねたり区別したりする合理的な理由がないものでも、性別が取り扱われてきたことを改めて感じます。

こうしたトランスジェンダーをはじめ LGBTQ への理解や配慮が求められてきたこともまだ日の浅いことですが、その他にも当たり前だからと割り切っていた多くのことについて、新たな視点、価値観に基づいて考えると、見直すべき必要があることに気付かされます。先ほど触れた日本航空では、今年4月、7年ぶりに客室乗務員やパイロット、整備士などの制服のデザインを一新し、客室乗務員の女性はワンピースかスカートが制服となっていたものに、初めてパンツも導入しています。

学校教育に目を向けると、例えば、女子の制服について、パンツの導入と、スカートかパンツかを学校へ届けずとも自由に選べるようにすべきだという意見が出ており、すでに実践している学校もあります。こうした取組は、生徒からの要望があるか否かに関わらず、学校の責任において推進されるべきことでしょう。「子どもの権利に関する条例」が施行される川崎市の学校として、子ども本位の取組を一層大切にしたいと願っています。今までそうだから、当たり前だからと捉えてしまうのではなく、真に大事にすべきことは何かに立ち返り、見直しを進めることが求められている時代ではないでしょうか。